要低迷、受注競争続く

10月の東南アジア紙・板紙市況

中国メーカー 続々増産体制

ルプ商事がまとめた海外紙パルプ情報と、東南アジアで低迷したまま膠着低迷する需要にサは価格調整をしれた発注量を確受注競争を続けて改善を求めて第2と毎月のように値続していたサプラ数量不足と価格高で厳しい受注活ている。

東南アジア現地は▽上質コート紙）＝七二〇―七▽上質紙（七〇グラム）八二〇米ドル▽未晒クラフトライナー（一七五グラム）＝六〇五―六一五米ドルとなっている。

Siam Ceme Group（SCG）社は、フィリピンの子会社であるUnited Pulp &Paper（UPP）社を強化している。フィリピンは今後、特殊紙などの需要が高まると予測されており、SCG社は先んじて力を入れている。同社によると、UPP社は二〇一六年までに生産能力を約一〇％高める計画だ。

一方、中国の山東省晨鳴紙業ホールディングスによると、広東省湛江市に同社子会社工場にて新聞用紙ラインを改造して、今回新たに年産約二〇万トンの非塗工上級紙の生産を開始した。十月初めに稼働を始めたラインの幅は五五六〇ミリで、もともと系列工場に設置されていた新聞用紙ラインを移設・改造したもの。この系列工場は中国でも大手の新聞用紙メーカーだったが、二〇〇六年に山東省晨鳴紙業の子会社になった。

また、安徽省のShanying Paper社は、このほど新たに再生コンテナーボード・ライン二基を、同社の馬鞍山市の新工場で操業を開始し年産合計一〇四万トンの増産体制に入った。二基のうち五号機はマシン幅八六〇〇ミリ、生産スピード分速一一〇〇メートル、米坪九〇―一七五グラムのクラフトライナーとテストライナーを日産一三八〇トン生産する能力を持つ。また、六号機もマシン幅は八六〇〇ミリ、生産スピードは分速一五〇〇メートル、米坪五〇―一一〇グラムの再生段ボールとテストライナーを日産一五四〇トン生産できる。

世界の需要・生産、中国のトップ続く

北米と欧州の長引く需要低迷にもかかわらず、二〇一三年の世界の紙・板紙生産量は前年を〇・八％上回って四億三〇〇〇万トンと史上最高レベルに達した。世界的にグラフィック紙の生産が減少する中、家庭紙と包材の好調な伸びが、そのマイナス分を埋めて余りある結果となった。

特に中国は、米国を上回って過去五年以上にわたり紙・板紙の需要、生産の両面で世界首位の座に居続けている。紙・板紙の世界需要の二五％、世界生産の二六％を中国が占めるという驚異的な割合を示している。

しかし、パルプの生産で見れば、引き続き米国が二〇一三年度で約四九〇〇万トンの生産量で世界一。第二位はカナダの約一七〇〇万トンだが、中国は約二〇〇万トン差でカナダに肉薄している。

白板紙国内代理店販売

ト白、今年最高6万トン台に

白板紙代理店国内主力品種コート白年最高の六万トンた。高・特板など品種の合計販売〇九四トンで、こ最高となった。によると、現状の選挙を控えた"中状態。この段階好転は、大手コンによる指定紙絡みの見方もある。ーカーの十月国前年同月比一・〇減少に転じた。

品種・地区別代販 白板紙代理店品種別国内販売は次の位トン、カッコ内比%）。

白ボール 東京二〇（九七・四）／〇七五（一〇七・阪二万九三七（一／京都六〇一（九五・二）／九州三三〇（九二・五）／北海道一三八六（八四・四）／仙台七八〇（一一七・三） 合計六万六六（九九・四）

ノーコート白ボール 東京一〇七一（一一五・三）／名古屋三九五（九五・〇）／大阪七四九（九九・九）／京都四八（一一一・六）／九州二九（三七・二）／北海道四三（一八七・〇）／仙台七二（七二・〇） 合計二四〇七（一〇二・九）

高級板紙 東京一万二四一九（一〇一・九）／名古屋一三六八（一二四・三）／大阪六三一二（一〇五・七）／京都一三八一（一三〇・四）／九州二四五（一二三・一）／北海道九一（七四・〇）／仙台七三（一一四・一） 合計二万一八八九（一〇五・七）

特殊板紙 東京一万二五〇四（九九・七）／名古屋二三三七（九三・六）／大阪八八六二（九八・四）／京都一六二五（一三三・四）／九州四七三（七八・八）／北海道九二三（一〇二・八）／仙台一三六（一四三・二） 合計二万六八六〇（一〇〇・〇）

一般マニラ 東京一二五一（八九・九）／名古屋一〇五（一一四・一）／大阪二八一（一三九・一）／京都一〇（二〇〇・〇）／九州一九五（一〇八・九）／北海道八（〇・〇）／仙台二二（一五七・一） 合計一八七二（九九・四）

5品種計 東京五万三三一二（九九・一）／名古屋一万二二八〇（一〇五・四）／大阪三万七一四一（一〇一・一）／京都三六六五（一二四・〇）／九州三一六二（九一・五）／北海道二四五一（九一・二）／仙台一〇八三（一一五・五） 合計一一万三〇九四（一〇〇・八）

成功が国家プロジェクトの呼び水に

― NPO法人緑の地球ネットワーク事務局長 高見 邦雄氏 ―

お前は引っ越せ、俺は引っ越すなんてことは出来っこないのだから、やっぱり、逆らっていたら損だし、何とか良好な関係を作るということが必要なのです。

私たちがこういうことをやっていて、この間、大阪版だけだと思うのですけれども、毎日新聞がでっかい記事を出したのです社会面トップで。「実りの信頼関係危機」と書いている。

危機なんて書かれちゃったら、企業だったら必ず潰れるねと言っているのだけど、中身は悪くないのですけれども見出しがひど過ぎるなと思ったのですけど、案の定、「お前ら何やっているんだ」と電話を掛けて来る人がいるのですよ。

また、言うのですけれども、私たちはやっぱり中国のためだけに木を植えているとは思っていませんよ。

実際、一八八〇万本、一九〇〇万本近く植えて来たのですけど、日本でこれだけ植えようと思ったら大変なことです。

恐らく一〇〇倍の資金を投じても出来なかったと思うのですけど、だけど、大したこと出来なんじゃないかと言われるかも知れないけど、例えば、さっき見ていただいたプロジェクトは二三〇㌶ぐらいですけど、あれは取っ掛かりの時に森林協会に相談に行ったら、現場に来た研究者たちがこう言ったのです。

「ここは絶対止めとけ。これだけ条件の悪い所で、しかも周囲の村があまりにも貧し過ぎる。ちゃんと管理できる余裕なんかどこにもないから、成功する見込みはまず立たないから、ここは止めといた方がいい」と言われたのです。

しかし、高見は難しいことが好きだから、ここをやっちゃったって…。そんなことは嘘っぱちで、最初こそ私も忙しかったけど、後になれば、もう余計な苦労もしたくないしと思っていました。

しかし、そこで成功したのですけど、あれは菌根菌を使ったりいろんな技術、日中の双方の技術を集めてやったりしたのです。そうやって、ああやって成功する実例が出来たのです。

すると、隣に一〇〇〇㌶の国家プロジェクトが来たのです。だから、うちの成功がなかったら、隣に一〇〇〇㌶なんか絶対になかった。そういう例がいくつも来ていますので、そう大きなことは出来ないのですけど、でもそれが一つの"呼び水"になって、いろんなプロジェクトが動き出してきたというのは、誇りにしてもいいと思います。

そういうことからいうと、スタート時に私たちの「環境に国境はない」というスローガンを掲げたのですけれども、本当に環境面で困難なことがいっぱい起こりつつあります。

そこで気の毒なのですよね若い皆さんが、大体、年輩の人たちは若い時から勝手なことばっかりして来たし、余計なものばっかり残して行くことになって、本当に私は申し訳ないと思っているのです。

仕事を選ぶなら今中国はチャンス

ですけど、最後に一つだけ言わせてもらいたいことは、例えば、中国との関係のことを思って、仕事を選ぶ時には、今がチャンスですよ。誰も行こうとしないでしょう。

そういう時には、やっぱり人と反対の方に張っておくというのは、絶対大事なことですから、頑張っていただきたいという具合に思っています。（おわり）

＝シンポジウム「持続可能な社会づくりに向けた国際ボランティアの可能性」での講演から

印刷の常識捨てて新たな可能性追求

印青連が1月にイベント「印刷実験室」

印刷産業青年連絡協議会（＝印青連、茂木徳久会長）は来年一月二十四日、東京都千代田区の科学技術館で印青連イベント「印刷実験室」を開催する。これに先だって、二日午後六時から、東京都文京区の文京シビックセンターで記者会見が行われた。

主催者挨拶で茂木会長は、「私たち印青連では、二年に一度、イベントを開催しているが、これまで一度も企業や団体などから補助を受けたことはなく、すべて手弁当で活動してきた。そういった意味で、どこからの影響も受けず、私たちの自由な発想でイベントが行える。今回も約一年にわたって皆でアイデアを出し合い、これまでとは一風変わった、ユニークなイベントを開催することとなった」と述べた。

挨拶する茂木徳久会長㊤と竹岡慎一委員長㊦

続いて、印青連ネットワーク委員の竹岡慎一委員長が、「今回のイベントは、いつも仕事で慣れ親しんでいる印刷を、違う観点から見たり、考えたり、試してみることがテーマ。印刷に対する常識や固定観念を捨てて実験する、あるいは挑戦することで印刷の新たな可能性を追求し、来場された印刷関係者の皆さんに楽しんでもらえるイベントにしたい」と抱負を述べた。

イベントでのメイン展示の一つが「面白名刺」。透明素材の名刺や葉っぱを模した名刺など、ユニークな名刺が会場に並ぶ。「皆さんが使っている名刺は、同じ素材、形、寸法のものがほとんど。こうした常識を破って、面白おかしい名刺を展示したい」と竹岡氏。

このほか、シール印刷の機械で作った箱や四色刷り輪転機を八度通して作ったシールなど、遊び心に溢れた作品を展示する予定。印刷関係者でなくても楽しめるイベントを計画している。

10月は製紙購入と業者仕入が超過

近畿地区古紙需給

十月の近畿地区古紙需給実績は、古紙全体で製紙メーカー（板紙七工場）の購入が消費を約二五〇〇トン、古紙業者（商工組合）の仕入が販売を約一一〇〇トンそれぞれ上回った。

メーカーの購入は合計一二万七一四七トン（前年同月比一・二％増）。この内訳は近畿地区域内からが一一万七一九九トン、自家発生七五九三トン。他地区からが一九七〇トン、輸入三八五トン。

また、メーカーの消費は一二万四六一四トン（前年同月比二・三％減）で購入を二五三三トン下回った。月末在庫は二万三三五四トンと前月に比べその分減少した。前年同月比の在庫率は一一四・六％。

一方、古紙業者は仕入が二六万六九一五トン（前年同月比一・四％減）。これに対して販売は二六万五八二〇トン（同一・四％減）で販売が仕入を一〇九五トン下回った。在庫はその分増加して一万九〇二〇トンとなった。在庫の前年同月比は九五・〇％。

輸出は八月実績で六万一二〇六トン（前年同月比二・一％減）。

なお一〇月計画は、メーカーの消費が一二万四〇〇〇トン（前年同月比〇・七％減）。古紙業者の回収が二六万八五五〇トン（同〇・五％減）となっている。

25社が参加し特種東海製紙など現場視察

日本RPF工業会が工場見学会・勉強会

一般社団法人日本RPF工業会（加藤信孝会長）の技術品質委員会は、十一月二十日から二十一日の二日間、（株）レックス（揚張旨彦社長）を幹事会社とし、特種東海製紙（株）の協力の下、第二回工場見学会及び勉強会を開催。王子エコマテリアル、エビス紙料、日本ウエストを始め二五社、四四人が参加した。

二十日午後三時にJR東海道本線の島田駅に集合。その後、特種東海製紙に移動して開会した。初めに主催者を代表して日本RPF工業会・技術品質委員会の海田周治委員長と、幹事会社を代表してレックスの揚張社長が開会の挨拶を述べた。

特種東海製紙での工場見学㊤と勉強会㊦（静岡県島田市）

特種東海製紙とレックスの会社紹介DVDを上映後、静岡県島田市の両社の工場で最新の設備を見学。その後、移動のバスの中で、（株）フジテックによるメーカープレゼンが行われた。

翌二十一日には、さつきばれ工業（株）と（株）アーステクニカによるメーカープレゼン及びRPF利用者講演として特種東海製紙原動部の牧田課長を講師に招き講演が行われた。質疑応答の後、再び特種東海製紙の工場を見学。最後に大井川川越遺跡など近隣の史跡を巡り、十一時半に島田駅で解散した。

参加者からは、「会社紹介DVDや工場見学を通して、特種東海製紙とレックスの企業理念や姿勢を知ることができた。また、実際に社員の方が誇りを持って仕事をされている様子を見て感心した。現場での工夫は弊社でも見習いたいものがあった」といった声が聞かれた。

井上治郎代表を再任

紙業会館が総会

愛媛県四国中央市の製紙、紙商、紙加工業者で組織する（株）紙業会館の第五九回定時総会と懇親会が十一月二十七日、ホテルグランフォーレ（同市）で開かれ、提出議案すべてが承認された。任期満了に伴う役員改選があり、井上治郎代表取締役（福助工業社長）＝写真＝ら全役員が再任した。

井上代表は挨拶の中で消費増税や衆議院の解散総選挙、日銀金融緩和に触れ、「円安がどんどん進むのは輸出企業には歓迎されることだが、一般の国内企業には大変厳しい状況。追加の金融緩和や原油価格急落が来年どのように影響するのか。一月七日の紙初市には盛大に商いができるよう景気の良い方向につながってほしい」と、述べた。

専務取締役以下の新役員は次の通り（敬称略）。

【専務取締役】石﨑康文（石﨑商事）、篠原勇治（サクラ・シノコウ）

【取締役】有高秀三（有高扇山堂）、石川晃司（石川米吉商店）、井原和彦（カクケイ）、片岡誠治（片岡紙工）、井川勝正（カミ商事）、合田正彦（合英）、石川喜平（ツバメクラ）、高橋剛（ゴー工業）、仁野幹夫（マルジン）、森川教義（森川）、森川泰幸（リュウグウ）

【監査役】守屋孝史（フタバ）、高石敏之（紙商高石）、清水龍司（清水）

事務所移転

SPP大阪支店

新生紙パルプ商事（SPP、若林紀生社長）は大阪支店（加藤康次郎取締役常務執行役員支店長）を移転する。

新事務所所在地は、〒五四二―〇〇八一 大阪市中央区南船場一―一六―一〇、大阪岡本ビル。業務開始日は二〇一五年一月五日。総務部総務課の電話番号は06・6262・8800、ファクス番号は06・6261・2916。

平和紙業名古屋支店

平和紙業（小島勝正社長）は名古屋支店（高玉浩支店長）を移転する。

新事務所所在地は、〒四六〇―〇〇〇三 名古屋市中区錦一―三―七、SK名古屋ビル。電話番号は052・223・2310（代表）、ファクス番号は052・223・2315（代表）。

同支店移転に伴いショールームの「ペーパーボイスヴェラム」も同所在地の同ビル一階に移転する。新ショールームの電話番号は052・223・2314、ファクス番号は052・223・2319。

営業開始日はいずれも二〇一五年一月十三日。

人事・機構

（敬称略）

日本製紙

（1月1日）

大竹工場長付部長兼安全環境管理室主席調査役（大竹工場安全環境管理室長）稲井浩▽兼安全環境管理室長（大竹工場長代理）西口恭彦

三菱製紙

（1月1日）

ダイヤミック（株）社長付（ドイツ事業担当洋紙事業部副事業部長兼海外営業部

平成26年10月 板紙品種別生産・出荷・在庫高表［暫定］

（単位：トン） 日本製紙連合会 紙・板紙部

品種	月初在庫高	生産高	前年比(%)	出荷高 合計	前年比(%)	国内 合計	前年比(%)	販売	自家用	輸出	前年比(%)	月末在庫高	在庫率(%)
クラフトライナー	211,296	346,903	102.8	353,318	102.4	344,204	101.2	321,885	22,319	9,114	184.1	204,881	58.0
ジュートライナー	60,397	121,405	96.8	125,175	99.2	125,056	99.8	120,303	4,753	119	13.2	56,627	45.2
外装用ライナー	271,693	468,308	101.1	478,493	101.5	469,260	100.8	442,188	27,072	9,233	157.8	261,508	54.7
内装用ライナー	8,152	10,381	92.0	10,969	101.6	10,969	101.6	10,969				7,564	69.0
[illegible]	279,845	478,689	100.9	489,462	101.5	480,229	100.8	453,157	27,072	9,233	157.8	269,072	55.0

FSC®森林認証紙
次の世代の子供たちに豊かな自然を残したい。
わたしたちは、生態系の保全を視野に入れた社会づくりを提案します。